ティル・フェルナー（ピアノ）

Till Fellner, Piano

　ウィーン生まれ、ブレンデルやマイセンベルクに師事。1993年のハスキル国際コンクールに優勝して国際的に注目を集めた。

　アバド、アシュケナージ、ブロムシュテット、ビシュコフ、ハイティンク、アーノンクール、ホーネック、マリナー、ナガノ、ノット、ペトレンコらの指揮のもと、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ニューヨーク・フィル、ボストン響、シカゴ響、NHK響などと共演。室内楽では、ヴィヴィアン・ハーグナー、マーク・パドモア、ベルチャ弦楽四重奏団と定期的に活動し、2023年にはメゾ・ソプラノのアンナ・ルチア・リヒターと東京でのリサイタルを成功させた。

J.S.バッハ「平均律クラヴィーア曲集」とベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の演奏に力を入れ、後者は2008～10年にかけてニューヨークや東京、ロンドン、パリ、ウィーンなどで全曲演奏会を行った。

　録音も数多く、ECMレーベル専属のアーティストとして、J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集第1巻』や『インベンションとシンフォニア/フランス組曲第5番』、ナガノ指揮モントリオール響との共演によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第4、5番などが発売されている。

　チューリヒ芸術大学とグラーツ国立音楽大学で後進の指導にあたっており、2019年にはブゾーニ国際コンクールで審査委員長を務めた。